

科目名		授業形態	担当教員名	
解剖学Ⅳ（呼吸発声発語系、聴覚系の構造・機能）		講義・実習	田中 義之・今井 絵美子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
聴覚音声言語障害に対するリハビリテーションを行う上で、基礎となる解剖、機能および病態を理解することは必須である。本講義では呼吸発声発語系、感覚器系(視覚・聴覚)に関係する解剖、生理を知り、聴覚音声言語障害のメカニズムを理解できるようになることを目的とする。				
授業の到達目標				
発声発語器官、嚥下に関する器官及び末梢感覚器の解剖、機能について理解する。				
授業計画				
回	内容			
1	聴覚系の機能・構造・病態① 聴覚器の構造（田中）			
2	聴覚系の機能・構造・病態② 聴覚器の発生（田中）			
3	聴覚系の機能・構造・病態③ 聴覚器の生理（田中）			
4	聴覚系の機能・構造・病態③ 聴覚器の生理（田中）			
5	聴覚系の機能・構造・病態④ 聴覚器の病態（田中）			
6	聴覚系の機能・構造・病態④ 聴覚器の病態（田中）			
7	視覚系の機能・構造・病態（田中）			
8	発声発語器官の構造と機能① 嚥下に関わる器官（今井）			
9	発声発語器官の構造と機能② 顔面、表情筋（今井）			
10	発声発語器官の構造と機能③ 口腔、舌（今井）			
11	発声発語器官の構造と機能④ 咽頭（今井）			
12	発声発語器官の構造と機能⑤ 喉頭（今井）			
13	発声発語器官の構造と機能⑥ 神経支配（今井）			
14	発声発語器官の機能と病態① 嚥下メカニズム（今井）			
15	解剖学実習			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
実習にも役立つ人体の構造と体表解剖		三木明德	金芳堂	
標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第3版		城間将江・鈴木恵子他編集	医学書院	
標準言語聴覚障害学 摂食嚥下障害学 第2版		藤田郁代監修, 椎名英貴編集	医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
自由記載	他に参考書として人体(特に頭頸部)のアトラスを参照すると良い。			
備考				